



直方市議会議員 やすなが浩之

スピードも
誠意あり

議会報告書

《令和7年12月定例会》

本会議

《意見書案第50号》

介護保険サービス・障害福祉サービス及び保育の公定価格 における地域区分の見直しを求める意見書

直方市では、介護・障害福祉・保育の3つの分野で人材不足が深刻化し、サービスを安定して提供することが難しくなっています。背景には全国的な物価高騰に加え、「地域区分」という制度が実態と合っておらず、近隣の自治体より報酬が低く設定されていることがあります。そのため職員が集まりにくく、人材が隣の市に流れてしまう状況が続いています。

介護分野では、特に訪問介護事業所の撤退が全国で増えており、直方市でもサービスの担い手不足が深刻です。障害福祉の現場でも専門性の高い人材が必要ですが、報酬が低いと確保が難しく、サービス基盤が弱まりつつあります。



保育の分野も同様に厳しい状況です。保育士の待遇が近隣より低いことから人材が集まらず、園児の受け入れが困難になり、希望する保育サービスを利用できない家庭も出ています。保育の質の低下や待機児童の発生につながるおそれもあります。

このままでは、高齢者、障害のある人、子どもたちに必要な支援が行き届かなくなり、地域で安心して暮らすための基盤が失われかねません。そこで国に対し、①介護と障害福祉の地域区分を近隣自治体と同じ水準へ見直すこと、②将来的に地域区分を県単位で設定する仕組みに改めること、③保育の地域区分も引き上げ、同様に県単位の制度に改めることを強く求める意見書を提出しました。

なお、意見書提出に先駆け、市内の介護・障がい・保育の現場を巡り、賛同の署名をお願いした結果、皆様から約2,000筆の署名が集まりました。国への意見書提出の際などに活用し、地域区分の見直しを実現へと導いて参ります。

Q&Aなど
詳細はコチラ▼



■一般質問①

【新幹線新駅の設置について】

詳細は
コチラ▶



「調査とスケジュールの進捗」・「財政負担と費用対効果」・「広域連携と地域振興との一体化」・「市民合意と情報発信」の4つの観点から質問を行いました。

新幹線新駅構想については、九州経済調査協会による広域調査や先行事例検証、周辺自治体との意見交換を踏まえ、期成会設立に向けた基本構想の整理が進行中です。当初2026年3月予定の設立は首長選挙の影響で6月以降に調整され、市長自ら周辺自治体へ参画を呼びかけています。開業時期は未定で、建設には数年を要する見込みです。財政面では、市単独で100億円規模の負担が想定され、国庫補助は現時点で未定、県・JRとの協議で負担軽減策を検討中です。新駅設置により進学・就職選択肢の拡大、人材確保、産業活性化など効果が期待されますが、具体的な数値目標は今後設定されます。広域連携では、宗像市・宮若市・鞍手町・小竹町と一体で地域振興を推進し、国・県の地方創生方針とも整合しています。市民合意形成や情報発信は計画具体化段階で検討される方針であり、透明性ある議論と市民参加の仕組み構築が求められます。



■一般質問②

【保健福祉センターの役割について】

詳細は
コチラ▶



「①高齢者支援・地域包括ケア」「②子育て・母子保健支援の強化」「③メンタルヘルス対策」「④災害時の福祉避難所機能」の4つの視点から市に質問しました。

来年4月開所予定の直方市保健福祉センター「ゆずりあ」は、高齢者支援・子育て支援・メンタルヘルス・災害対応の中核施設です。地域包括支援センターは市庁舎に残る一方、センターでは社会福祉協議会と連携し介護予防や認知症啓発、医療・福祉関係者の研修拠点として機能します。乳幼児健診や療育環境は「ゆずりあ」に移行し、栄養指導室で離乳食教室も再開予定。心の健康相談や孤立支援を強化し、災害時は中央公民館と連携した補完的避難所、物資備蓄・発電設備も整備。新たな拠点として市民・地域・行政を結ぶハブ役割を担います。

発行人：直方市議会議員 安永 浩之

連絡先：やすなが浩之市議会議員事務所

住所：直方市知古1丁目6番1号

メール：info@h-yasunaga.jp

電話：0949-28-8087

↑携帯電話転送で、いつでも相談を受け付けています。

バックナンバーは公式HPをご覧ください

ホームページ <http://h-yasunaga.jp>

やすなが浩之

検索



直方市の情報を毎日お伝えする

『公式ブログ』はじめました →

<https://www.go2senkyo.com/seijika/159150>



